Briefing

WaterAid

水の価値とは？

2016年の世界の水

はじめに

ほぼ毎日世界のどこかで、水の話題が新聞の見出しを飾っています。干ばつ・洪水・水質汚染が重大なニュースになるのは、水が最も貴重で、争いの元になるほど、なくてはならない資源だからです。
しかし、何より深刻なのは、世界で最も貧しい6億5,000万の人々が、[1]「改善された」飲料水源（右図参照）を利用できない生活をしているということです。こうしたコミュニティの人々の経済的損失―収入の消耗・不健康・生産性の欠如―は非常に大きく、家庭から国家のレベルに至るまでその影響は計り知れません。

世界の最貧困層が正規の水道サービスを利用できないのは、水の使用料を払うことができないからだと思われがちです。ところが、この報告書が示すように、料金は支払っており、しかも「公的な」水を利用できる幸運で裕福な人たちよりはるかに高い金額を支払っていることが多くあります。

16か国で、人口の40%以上が覆いのある井戸のような基本的な給水設備にアクセスできずにいます。[2] 貧しく社会から取り残されたコミュニティでは、何の覆いもない池や川から汚染された水をくんだり、収入の大部分を使って販売業者から水を買うほか選択肢はありません。

こうした水は常に健康を脅かす危険性があり、多くの場合、死につながることもわかっています。世界的に見ると、汚染された水と劣悪な衛生環境による下痢性疾患は、肺炎に次いで二番目に多い子供の死因となっており、毎年31万5,000人が命を落としています。[3]

さらに、人口増加や土地利用の変化、森林の減少にともない、水資源はますます不安定な状態になりつつあります。気候変動の影響で、先にあげた水資源への脅威はさらに深刻になりかねず、そうなれば安全で信頼できる水を得られない貧しい人々は、大きな打撃を受けることになります。

このような現実から目を背けることはできません。手ごろな値段の水へのアクセスは人権であり、「水・衛生サービスの支払いのためにほかの必需品やサービスへの財力が制限されてはなりません。」[4]10人に1人が、安全な水を手ごろな値段で手に入れられないために貧困と病気の悪循環から抜け出せずにいるような状態では、持続可能な開発のためのグローバル目標[5]など達成できるはずがありません。

本レポートでは、2016年の世界の水に関する概況を課題の大きい国のストーリーを交えながらお伝えします。

1990年以降、きれいな水にアクセスできるようになった人は26億人に達し、[6]かつてないほどの進歩の時代といえます。しかし、まだあまりにも多くの人々が取り残されています。世界は持続可能な開発のためのグローバル目標に向かって動きだしています。ウォーターエイドはすべての人々にすべての場所で安全な水を届ける必要性について示し、解決策を提案していきます。

表紙写真：パプアニューギニアの首都、ポートモレスビーにあるスラムに住むドリス・タルバンさん。彼女の住む地域には水道管が1本あり、それを100家族で使っています。水圧が弱いときは、長い間水くみの列に並ばなければなりません。列の後ろのほうに並んでしまうと、順番が回ってくるころには、すでに水がなくなっていることもあります。

Photo credit: WaterAid/Tom Greenwood

改善された水源 [7]
公共水道
覆いのある井戸
雨水
住居に引かれた水道
改善されていない水源
川
池
覆いのない井戸
給水車
ボトル入り飲料水

カジャル・ガウタムさん（16歳）水くみからの帰り道。インド、カンプール州、ニフラ・バスティ。

Photo credit: WaterAid/Poulomi Basu

1. 水はいくら？

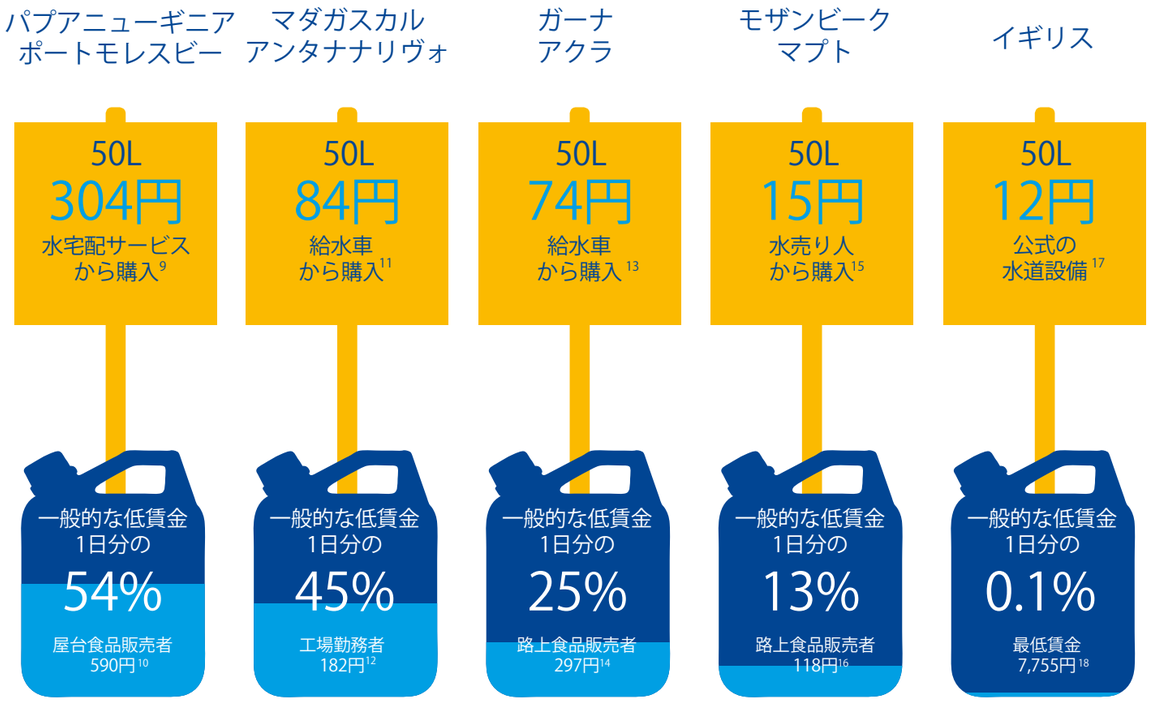
手ごろな値段で改善された便利な水源を利用できないことが大きな壁になり、人々は貧しく病気になりやすい生活から抜け出せずにいます。

水の値段

家庭で安全な水を手に入れられない開発途上国の貧しい人にとって、わずかな収入の中から、推奨されている量である1日あたり50リットルの水を購入[8]するのは、大きな負担です。多くの人は健康と尊厳を犠牲にしてはるかに少ない量を使用するか、安全ではない水源から水をくんでいます。

1日あたり50リットル

世界保健機関（WHO）によれば、衛生的で健康な生活を維持し、家庭内のさまざまな用途に使うには、1人あたり1日50リットルの水が標準的な量であるとされています。[8]



安全ではない水が健康と仕事にもたらす4つの影響

安全ではない水と劣悪な衛生環境による下痢性疾患は、子供の死亡原因第2位に挙げられます。
毎年31万5,000人の子供が命を落としています。[19]

子供の栄養不良の50%は、安全ではない水や不適切な衛生設備、劣悪な衛生環境に関連しているとされ、脆弱な保健医療システムに大きな負担を与えています。[20]

歩いて、並んで、水くみ用の20リットルのポリタンクを運ぶ—これには長い時間がかかります。サハラ以南アフリカに住む女性たちが、1日に飲料水をくみに行くために費やす時間をすべて合計すると少なくとも1600万時間になります。[21]

職場にきれいで安全な水がないと、職員の欠勤や離職、やる気の低下を招き、仕事の生産性に深刻な影響を与えます。[22]

水へのアクセスを阻む3つの理由

1. 資金不足、もしくは水・衛生が政治的優先事項ではない

水・衛生へのアクセスを改善するにあたって最大の障壁は、このような必要不可欠のサービスにあてる資金が慢性的に不足していることに加え、すべての人に清潔な水とトイレを届けることを最優先課題とする政治的意思がないことです。多くの開発途上国では、保健と教育にくらべて水・衛生サービスに使われる支出はわずかです。海外からの援助のうち、水や衛生にあてられる援助の割合はこの10年でわずかに上昇し4.4%になりましたが、まだまだ受け入れがたいほど低い状態です。[23]

2. 政府が水を供給できない

多くの貧しい国々では、水インフラがあったとしても、効果的な制度や管理体制が整っておらず、サービスの運用を続けていくために必要なエンジニア、管理者、そのほかの技術スタッフを確保するのが難しい場合があります。政情が不安な国々では問題はさらに切実で、水インフラやシステムが破壊されており、最初から作り直す必要があります。

3. 深刻な不平等

遠隔の農村地域に住む人々は、信頼性の高い水源が手に入りにくい状況に置かれています。しかし都市部であっても、最貧困層は社会的に排除されることが多く、水関連のサービスについて要望を聞かれたり、決定の場に参加したりすることはまずありません。

Photo credit:WaterAid/GMB Akash/Panos

気候変動

洪水や干ばつ、予測不能な豪雨、汚染された水。気候変動をおもに実感するのは、このようなことが起きたときです。改善されていない水源は、これらの要素に対してあまりにも脆弱です。洪水地域にある覆いのない簡易な井戸は、すぐに汚染されてしまいます。浅井戸は乾期が長びくとすぐに干上がってしまいます。

こうして水の需要は多いにもかかわらず供給量が少なくなると、闇市場の販売業者は水の値段をつり上げるかもしれません。その結果、世界で最も貧しい人々は、信頼性が低く不便で、値段も高く、命の危険も伴う方法で水を得るしかなくなります。[24]

「もうすぐ妊娠9か月になりますが、村からかなり離れたところまで、家族のために水くみにいかなくてはなりません。」
ゾシーさん（35歳）
マダガスカル、アナラマンガ県
Photo credit: WaterAid/Ernest Randriarimalala

2. 家庭における水のアクセス状況が悪い国ーワースト10

表1:
安全な水にアクセスできない人の割合が高い国——ワースト10[25]

順位		%
1	パプアニューギニア	60
2	赤道ギニア	52
3	アンゴラ	51
4	チャド	49
5	モザンビーク	49
6	マダガスカル	48
7	コンゴ民主共和国	47
8	アフガニスタン	45
9	タンザニア	44
10	エチオピア	43

表2:
安全な水にアクセスできない人口が多い国——ワースト10[26]

順位		人口
1	インド	75,777,997
2	中国	63,166,533
3	ナイジェリア	57,757,141
4	エチオピア	42,251,031
5	コンゴ民主共和国	33,906,771
6	インドネシア	32,286,276
7	タンザニア	23,239,992
8	バングラデシュ	21,088,119
9	ケニア	17,205,557
10	パキスタン	16,096,404

安全な水にアクセスできなければ、人々の健康が損なわれ生産性が低下するばかりでなく、稼いだわずかな収入を失うことになります。世界の最も貧しい人のなかには、収入の半分を使って無認可あるいは違法な方法で水を得ている人々がいます。その額は、自治体の提供する正規の給水を利用する隣人が払う金額の何倍にもなるのです。

パプアニューギニア

安全な水を利用できない人口の割合が最も高い国

450万人
安全な水のない人々[27]

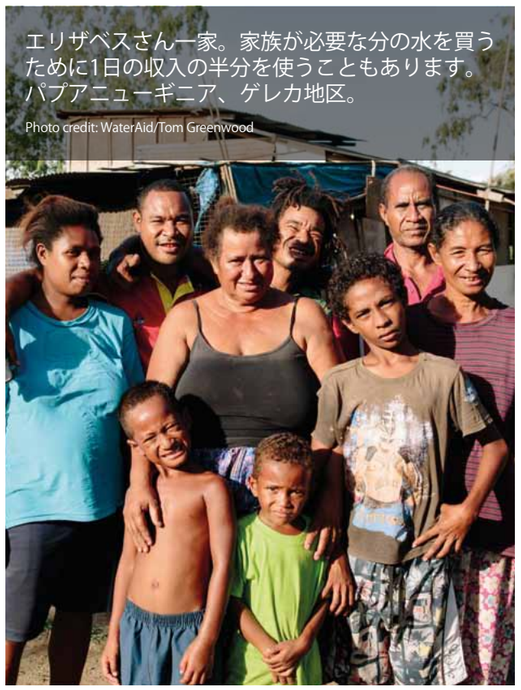
60%
安全な水のない人々の割合

800人
1年に下痢でなくなる子供の数[28]

304円
水宅配サービスによる水50Lの値段[29]

54%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[30]

安全な水の不足は、この貧困にあえぐ国を日常的に支配しています。山間の深い森に囲まれた農村地域では、60%以上の人々が安全な水のない生活を送っています。[31]



エリザベスさん一家。家族が必要な分の水を買うために1日の収入の半分を使うこともあります。パプアニューギニア、ゲレカ地区。

Photo credit: WaterAid/Tom Greenwood

首都ポートモレスビーでは、約半数の人々が、急な坂道や洪水の起きやすい非公式の住居に住んでいます。このような場所は給水サービスのない地域であり、既存の水道本管や下水管から離れているため、住民は公式の給水サービスを利用できるようになるまで何年も待たなければなりません。海面上昇や頻繁に起こる異常気象によって、給水、さらには日々の暮らしそのものがより不安定になります。[32]

パプアニューギニアの首都ポートモレスビーの郊外にあるゲレカ地区住むエリザベスさん（53歳）。スナック類を屋台で売ることを仕事にしており、商売が順調にいった週の売り上げは100キナ（4,125円）、1日あたり14キナ（594円）になります。エリザベスさんの夫は、建設の仕事に就いており、同じくらいの収入を得ています。

「水を得るのは難しいことですが、私たちにはこの井戸があって幸運です。」とエリザベスさん。
井戸は、覆いがされていないため、エリザベスさんとその家族は、体を洗うことと洗濯にその水を使います。飲み水と料理用の水は、「ウォーターボーイ」と言われる水宅配サービスに頼っており、それには50Lの水に7.5キナ（303.6円）、収入の半分以上を払わなければなりません。

「ウォーターボーイ」がゲレカに来ないときは、容器を持って、別の場所まで水くみに行かなければなりません。1日に何往復もしなければならないときはバス代に16キナ（約646.8円）ほどかかることもあります。[33]

インド

安全な水を利用できない人口が最も多い国

7,580万人
安全な水のない人々[34]

5%
安全な水のない人々の割合

14万人
1年に下痢でなくなる子供の数[35]

83円
水売り人（給水車）による水50Lの値段[36]

17%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[37]

インドでは、およそ7600万人が安全な水を使うことができません。そのような人々のほとんどが、1日あたりおよそ3ポンド（495円）で生活しています[37]。給水車から水を買う場合は、1リットルあたり1ルピー（1.7円）です。水が足りないときには、その2倍を請求されるときもあります。
インドがすべての国民に水を供給できない最大の理由は水資源の管理が不十分だからです。飲料水の85%は地下水から供給されていますが、[38] この国の56%で地下水位が低下しています。[39] 手押しポンプを使うことで浅い地下水が枯渇し、多くの地域で危機的状況に拍車がかかっています。

給水プロジェクトの計画および実行における不正流用も大きな要因です。さらに、給水プロジェクトにおいて、不適切な水源や管路が使用され、住民に水が届かないこともあります。その結果、数百万人が利用する水の量が十分ではなく、質も悪いという事態が起きています。
どのコミュニティも遠くにある、あるいは1つしかない水源に頼るため、しばしば争いが起き、水くみをおもに任されている女性や子供たちに対する差別行為も頻発しています。

飲料水の85%は地下水から供給されていますが、この国の56%で地下水位が低下しています。インドのカンプール州にあるニフラ・バスティでは、少女たちが水栓で水をくもうと列を作っています。

Photo credit: WaterAid/Poulomi Basu

モザンビーク

安全な水を利用できない人口の割合が世界で5番目に高い国

1,330万人
安全な水のない人々[40]

49%
安全な水のない人々の割合

7,000人
1年に下痢でなくなる子供の数[41]

15円
水売り人（給水車）による水50Lの値段[42]

13%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[43]

フェリザルダさんとアメリアさんは、マプト州郊外のボアネ郡に住んでいます。2人とも貧しい村の出身ですが、水の利用については天と地ほどの格差があります。

フェリザルダさんは政府の補助金で作られた給水栓をほかの500世帯と共有し、1日あたり0.6メティカル（約1.7円）支払うことで、いつでも安全な水を利用できます。

「私は1日あたり20リットル容器で12杯の水をくみに行きます。これで毎日の生活で家族が基本的に必要とする量をまかなえます。この水源はとても気に入っています。わが家の隣にあるし、月々の支払額も負担可能な範囲だからです。」とフェリザルダさん。

一方、アメリアさんとその夫は１日あたりおよそ100メティカル(約234円)で生活しています。それにはアメリアさんが毎日パン50個を売って得た収入も含まれます。違法な水売り人から買うほかに水を得る方法がなく、それには20リットル容器あたり2.5メティカル(約6.6円)支払っています。

「料理や洗濯をし、家族全員が身体を洗い、そのほか様々な用途に使うためには、毎日20リットル容器で14杯は必要です。」と3人の子を持つお母さんであるアメリアさんは言います。「近所には水源がなく、自宅の水道水を売っている人に頼らなければなりません。容器1つで2.5メティカル(約6.6円)もします。本当に高すぎます。今日は、水のためにすでに35メティカル(約84.2円)払いました。」[44]

フェリザルダさんは、1日1.7円で、政府の給水栓の水を制限なく使うことができます。
Photo credit: WaterAid/Hélder Samo Gudo

アメリアさんは、水売り人から50リットルの水を買うために、1日15円を支払っています。
Photo credit: WaterAid/Hélder Samo Gudo

マダガスカル

安全な水を利用できない人口の割合が世界で6番目に高い国

1,170万人
安全な水のない人々[45]

48%
安全な水のない人々の割合

3,000人
1年に下痢でなくなる子供の数[46]

83円
水売り人（給水車）による水50Lの値段[47]

45%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[48]

マダガスカルのある地域では、水を50リットル購入すれば、日給半分が消えてしまいます。したがって多くの人々は、アナラマンガ県にあるこのような川から水を集めるほか選択肢はないのです。
Photo credit: WaterAid/Ernest Randriarimalala

非正規の水源 と 正規の水源[49]

給水車:
1リットルあたり50アリアリ(約1.7円)

業者から購入するボトル入り飲料水:
1リットルあたり1000アリアリ(約33円)

移動水売り:
1リットルあたり20アリアリ(約0.3円)

売店:
1リットルあたり50アリアリ(約0.8円)

政府が支援し、コミュニティで管理している水源
1人の使用量が10〜20リットルとして1家族(約5人)1か月あたり500アリアリ(約18.2円)

エチオピア

水を利用できない人数が世界で4番目に多く、安全な水を利用できない人口の割合が世界で10番目に高い国

4,220万人
安全な水のない人々[50]

33%
安全な水のない人々の割合

1万5,000人
1年に下痢でなくなる子供の数[51]

17円
水売り人による水50Lの値段[52]

15%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[53]

ビルクタウィトさんが住むオロミア州レク・ケタでは、水栓からの給水が1か月にたった3、4回しか行われません。「給水が始まると、ときには3日ほどその状態が続きますが、1日で断水することもあります。大きなドラム缶に水を貯めてもせいぜい200〜300リットルにしかならず、子供が3人いるので、それでは1週間ももちません。ですから、水売り人からとても高い値段で水を購入しなければなりません。」

水売り人はたいてい若者で、定期的に水が得られない家庭に水を運んで生計を立てています。彼らは1,000リットルあたり4.5ブル（約242.6円）で水を買い、客には50リットルあたり3ブル（約16.5円）で売り、配達が必要な場合は50リットルあたり30ブル（約161.8円）を請求します。

管理人や警備員などランクの低い公務員の場合、日給はおよそ20ブル(約107.3円)[53] で、推奨されている1日あたり50リットルの水を購入し家まで自分で持ち帰るために、給料の15%を払うことになります。配達してもらうと給料の150%を払わなければなりません。このようなコストに直面するので、多くの人は買う水の量を減らすか近く川から水をくむようになるのです。

アディスアベバの中心部にある典型的な中産階級家庭が、水道水を1日あたり100リットル以上使用したときに給水会社に払う額は、1か月15ブル（約80.9円）です。つまり、給水会社からの水道水は、エチオピアのオロミア州にある給水栓で水売り人から購入する金額の、20分の1額ですむということです。[54]

給水会社からの水道水は、ビルクタウィトさんがエチオピアのオロミア州にある給水栓で水売り人から購入する金額の、20分の1の値段です。

Photo credit: WaterAid/Behailu Shiferaw

Water: At What Cost?The State of the World's Water 2016

ザンビア

安全な水を利用できない人の割合は、199カ国中21位[55]

540万人
安全な水のない人々[56]

35%
安全な水のない人々の割合

3,000人
1年に下痢でなくなる子供の数[57]

14円
水売り人による水50Lの値段[58]

4%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[59]

ジェニファーさんと警備員をしている夫は、同じ地区に住む隣人たちと同様に、適切な給水設備も下水サービスを利用できておらず、付近の裕福な郊外に住む水売り人から買うしか選択肢はありません。より裕福な人々は自分たちの土地に掘削井戸を作り、容器に入った水をジェニファーさんのような水を利用できない人たちに売っています。

「私たちは210リットル入りドラム缶1つにつき、6クワチャ（約62.7円）払っています。
家では最低ドラム缶2つ使うので、わたしたちに必要な分だけで1日12クワチャ（約125.5円）もするのです」とジェニファーさんは言います。

日給は平均して33クワチャ（約343.3円）なので、家族が必要とする水のために、ジェニファーさんと夫のジョセフさんは家計の少なくとも37%を使っていることになります。

町に住み、ルサカ上下水道公社のパイプを通ってくる水を利用できる幸運な人たちは、3万リットルの水に対して3.98クワチャ（約41.3円）しか請求されず、50リットルに対してはわずか約0.07円で済みます。[60]

水売り人から買った210リットル入りドラム缶を家まで転がしていくジェニファー・チクワンダさん（36歳）。ザンビア、ルサカ市

Photo credit: WaterAid/Chileshe Chanda

3. 水へのアクセスが最も改善された国 ——トップ20

近年、世界の最貧困層の安全な水へのアクセスは、これまでにないほど改善されています。ミレニアム開発目標で定められた、安全な飲料水を手に入れられない人の割合を半減させるという目標は、期限である2015年　よりも早い、2010年に達成されました。[61]

現在では、全人口の90%以上が改善された飲料水を手に入れることができます。しかし、この15年の間に安全な水へのアクセスで顕著な成果を上げた国々の中でも、何百万人もの人々が安全な水という基本的人権を享受できずにいるのも事実です。

表3:
水へのアクセスが最も改善された国　トップ20[62]

順位	国名	安全な水を利用できる人々の割合 2000年 (%)	安全な水を利用できる人々の割合 2015年 (%)	安全な水を利用できるようになった人の増加率 2000年-2015年 (%)
1	カンボジア	41.6	75.5	33.9
2	マリ	46.6	77.0	30.4
3	ラオス	45.5	75.7	30.2
4	エチオピア	28.9	57.3	28.4
5	マラウイ	62.5	90.2	27.7
6	ギニアビサウ	52.1	79.3	27.2
7	アフガニスタン	30.3	55.3	25.0
8	パラグアイ	73.4	98.0	24.6
9	ウガンダ	56.4	79.0	22.6
10	ブルキナファソ	59.9	82.3	22.4
11	スワジランド	51.9	74.1	22.2
12	ベトナム	77.4	97.6	20.2
13	サントメ・プリンシペ	78.2	97.1	18.9
14	バヌアツ	75.8	94.5	18.7
15	ガーナ	70.5	88.7	18.2
16	東ティモール	54.3	71.9	17.6
17	ナイジェリア	51.8	68.5	16.7
18	ブータン	83.9	100.0	16.1
19	スリランカ	79.7	95.6	15.9
20	モーリタニア	42.0	57.9	15.9

カンボジア

2000年以降水へのアクセスが最も改善された国

380万人
安全な水のない人々[63]

24%
安全な水のない人々の割合

600人
1年に下痢でなくなる子供の数[64]

289円
水売り人による水50Lの値段（ボトル入り飲料水）[65]

108%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[66]

コットム村にあるこの病院では、患者たちは水道水の質に疑問を抱いているため、ボトル入り飲料水を買っています。
Photo credit: WaterAid/Kim Hak

カンボジアはこれまで、激動の時代を経験してきました。クメール・ルージュ政権による虐殺やソーシャルエンジニアリング（政府やある政治団体が、大衆の社会的な態度や行動に影響を及ぼそうとすること）によって、あらゆる年代の専門家が亡くなり、結果として経験あるエンジニア、技術者や保健の専門家の不足が生じました。内戦終息後、この国の開発の推進に貢献しようという最初のうねりが起きています。1990年以降の貧困削減や急速な経済成長とともに、安全な水へのアクセスも改善されてきました。首都プノンペンではほとんどすべての人が安全な水を使えていると言えます。

しかし、カンボジアの80%の国民は農村地域に住んでおり、その多くが極度の貧困下にあります。カンボジア国内にはおよそ50万基の掘削井戸がありますが、[67]人々に維持管理技術を指導するための投資が十分ではありません。さらに、設備の維持管理のための国のシステムが脆弱であるため、これらの設備が使えるかどうかはばらつきがあると言えます。

ブルキナファソ

2000年以降水へのアクセスが10番目に大きく改善された国

320万人
安全な水のない人々[68]

18%
安全な水のない人々の割合

4,000人
1年に下痢でなくなる子供の数[69]

13円
水売り人による水50Lの値段[70]

9%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[71]

首都ワガドゥグの郊外に住むマリー・カボレさんは、家族分の水を近所の水売り人から買うために、1日分の給料の約20%と数時間を費やしています。

Photo credit: WaterAid/Basile Ouedraogo

1980年代、ブルキナファソ中で行われた住居開発の一環として、急激に水へのアクセスは改善されました。国立水・衛生局は公的機関として存続し、政府は貧困層向けに、給水サービスの基本料・使用料を安価で提供しています。

政治的困難にもかかわらず、政府のリーダーシップや政治的意思、そして公的セクターと民間セクターの連携をもって水のアクセスは改善されてきました。しかし、取り残された5分の1の人々のために、やるべきことが多く残されています。

ガーナ

2000年以降水へのアクセスが15番目に大きく改善された国

300万人
安全な水のない人々[72]

11%
安全な水のない人々の割合

3,000人
1年に下痢でなくなる子供の数[73]

74円
水売り人による水50Lの値段[74]

25%
一般的な低賃金の1日分のうち、水50Lが占める割合[75]

首都アクラの大部分において、水道による水の供給が不安定、または皆無であるため、住民はほかの方法で水を手にいれなければなりません。経済的に余裕がある人々の家には、トラックによって大量の水が運ばれ、家庭にあるタンクや樽に貯めておきます。質素な手段を選ぶしかない人々は、バケツ単位で日々水を購入しなければなりません。

ドリス・オパレビアさんはアクラのホテル建設地の隣の小屋に住んでいます。ドリスさんは建設業者向けに食事を作って販売して得た10セディ（約297円）で1日を過ごします。水は、毎日近所に給水車で水を売りに来る業者から買っています。給水車から水を買うには、10Lに約0.5セディ（約14.9円）かかります。一般的な貧困家庭で必要な100Lの水を買うとすると、日給の50%が水に消えることになる場合もあります。

家庭用に水を貯めておける中所得層は、1日に10Lの水を0.16セディ（約3.3円）で買うことができ、これは貧困層の4分の1の値段にあたります。そして、水道の水を使える人々は、ガーナ・ウォーターカンパニーから10Lを0.01セディ（約0.3円）で買うことができ、ドリスさんが支払っている金額の50分の1になります。[76]

アクラに住むドリス・オパレビアさん一家は、水道から水を得られる中所得層よりも50倍も高い値段で水を買っています。

Photo credit: WaterAid/Elio Stamm

4. 私たちにできること

世界のリーダーたちは、2030年までに、すべての人にすべての場所で安全な水と衛生を届けることを約束—これが、2015年9月に国連加盟国によって採択された持続可能な開発に向けた17のグローバルゴールズ（国際的な目標）のなかのゴール6です。[77]

この歴史的な目標がなかったとしても、人々の健康と経済的な利益を考えれば、国のリーダーたちは水・衛生の問題に早急に取り組むでしょう。基本的な給水設備と機能的なトイレを設置し、さらにそれが10年使い続けられるようにするために必要な費用は、1人につきたった70ポンド（約11,500円）です。[78]

そして水・衛生分野に1ポンド（約165円）投資されると、生産性や健康状態の向上、働く時間の増加により平均して最低4ポンド（約660円）の利益が生まれます。[79] さらに、毎年約31万5,000人の子供の命が救われ、多くの子供が栄養を十分に摂ることが可能になります。

「持続可能な開発目標」が採択され、安全な水へのアクセスが達成すべき目標の1つとして定められました。緊急に解決すべき課題に対して、財源を増やし集中させることが政治的に優先されるよう、私たちは注視する必要があります。それは、ドナーや途上国政府からの資金の増加、支払可能な料金および管路への接続、そしてすべての人が利用することが可能な、信頼性が高くかつ誰でもアクセス可能な給水サービスを生み出すための活気ある統制のとれたセクターを意味しています。[80]

水・衛生に投資された
1ポンド
(約165円) で…

健康状態の向上や
働く時間の増加に
より平均して最低
4ポンド[79]
(約660円)
の利益がうまれます

ウォーターエイドは、すべての人がすべての場所で安全な水を利用できるよう、早急にこれらの活動が行われることを求めます

- 政府は革新的かつ長期的に、水・衛生に対する公・私的投資を増やし、持続可能な水・衛生サービスの利用を可能にする強固な政策を打ち立てなければなりません。
- ドナー国政府は、特に支援を必要としている国やコミュニティを対象に重要な援助を実施すると同時に、それらは、支援対象国の国家システムと計画に沿ったものでなければなりません。
- 政府とドナーが貧困層と社会的に取り残された人々に対するサービスの改善を優先させ、また、それらサービスがすべての人にとって確実に支払可能であるよう配慮しなければなりません。
- 職場、コミュニティ、そしてサプライチェーンにおける水・衛生のユニバーサル・アクセスを実現するために、民間セクターと公共セクターがより効果的な方法で連携することが必要です。ユニセフが出した"WASH4Work"は、水のユニバーサル・アクセスという目標に関わる民間企業や政府、国際機関を1つに束ねる鍵となるでしょう。[81]
- 政府は、保健、栄養、教育、ジェンダー平等、雇用などほかの分野の政策や計画に水・衛生へのアクセスの改善を確実に組み込み、統合的なアプローチを取らなければなりません。
- 政府は、2015年にパリで行われた気候変動枠組条約締約国会議にて定められた目標を実行に移さなければなりません。気候への適応に関する財源を増やし、その使い道を明確にすることで、最貧困層や最も脆弱なコミュニティが気候変動の影響を受けないようにすることができます。これらのコミュニティにおける水の安全性を高めることは、適応策として妥当であり優先度も高いと考えられます。

付録:
世界の水の状況: 安全な水を利用できない人々の割合 2016年版（割合の少ない順）[82]

国名	水を利用できない人々の人口に対する割合
米領サモア	0
アンドラ	0
アルメニア	0
オーストラリア	0
オーストリア	0
バーレーン	0
ベルギー	0
キプロス	0
チェコ	0
デンマーク	0
フィンランド	0
フランス	0
仏領ポリネシア	0
ジョージア	0
ドイツ	0
ギリシャ	0
グリーンランド	0
ハンガリー	0
アイスランド	0
イスラエル	0
イタリア	0
日本	0
ルクセンブルク	0
マルタ	0
モナコ	0
オランダ	0
ニュージーランド	0
ノルウェー	0
ポルトガル	0
カタール	0
ルーマニア	0
シンガポール	0
スロバキア	0
スペイン	0

国名	水を利用できない人々の人口に対する割合
スウェーデン	0
スイス	0
トケラウ諸島	0
トルコ	0
イギリス	0
ブータン	0
米領バージン諸島	0
マルティニーク	0
クック諸島	0.1
ボスニア・ヘルツェゴビナ	0.1
モーリシャス	0.1
カナダ	0.2
バルバドス	0.3
ベラルーシ	0.3
ウルグアイ	0.3
モンテネグロ	0.3
朝鮮	0.3
エストニア	0.4
アラブ首長国連邦	0.4
クロアチア	0.4
トンガ	0.4
グアム	0.5
スロベニア	0.5
ベリーズ	0.5
ブルガリア	0.6
エジプト	0.6
マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	0.6
グアドループ	0.7
ラトビア	0.7
アメリカ	0.8
セルビア	0.8
仏領レユニオン島	0.9
アルゼンチン	0.9
クウェート	1.0

国名	水を利用できない人々の人口に対する割合
チリ	1.0
英領モンセラット	1.0
サモア	1.0
レバノン	1.0
モルディブ	1.4
ニウエ	1.5
ニューカレドニア	1.5
バハマ	1.6
ポーランド	1.7
セントクリストファー・ネーヴィス	1.7
ガイアナ	1.7
マレーシア	1.8
ブラジル	1.9
蘭領アルバ島	1.9
パラグアイ	2.0
アイルランド	2.1
アンティグア・バーブーダ	2.1
タイ	2.2
コスタリカ	2.2
チュニジア	2.3
ツバル	2.3
ベトナム	2.4
北マリアナ諸島	2.5
ケイマン諸島	2.6
サントメ・プリンシペ	2.9
サウジアラビア	3.0
ロシア	3.1
ヨルダン	3.1
グレナダ	3.4
リトアニア	3.4
ナウル	3.5
セントルシア	3.7
ボツワナ	3.8
ウクライナ	3.8
イラン	3.8
メキシコ	3.9
セーシェル	4.3
フィジー	4.3
スリランカ	4.4
中国	4.5

国名	水を利用できない人々の人口に対する割合
トリニダード・トバゴ	4.9
アルバニア	4.9
セントビンセント及びグレナディーン諸島	4.9
キューバ	5.1
スリナム	5.2
パナマ	5.3
マーシャル諸島	5.4
英領アンギラ	5.4
バヌアツ	5.5
インド	5.9
エルサルバドル	6.2
ジャマイカ	6.2
オマーン	6.6
ガボン	6.8
南アフリカ	6.8
ベネズエラ	6.9
カザフスタン	7.1
グアテマラ	7.2
フィリピン	8.2
カーボヴェルデ	8.3
ネパール	8.4
パキスタン	8.6
コロンビア	8.6
ホンジュラス	8.8
ナミビア	9.0
ガンビア	9.8
マラウイ	9.8
シリア	9.9
コモロ	9.9
ボリビア	10.0
ジブチ	10.0
キルギス	10.0
ミクロネシア	11.0
ガーナ	11.3
モルドバ	11.6
インドネシア	12.6
アゼルバイジャン	13.0
ニカラグア	13.0
エクアドル	13.1
バングラデシュ	13.1

Water: At What Cost?The State of the World's Water 2016

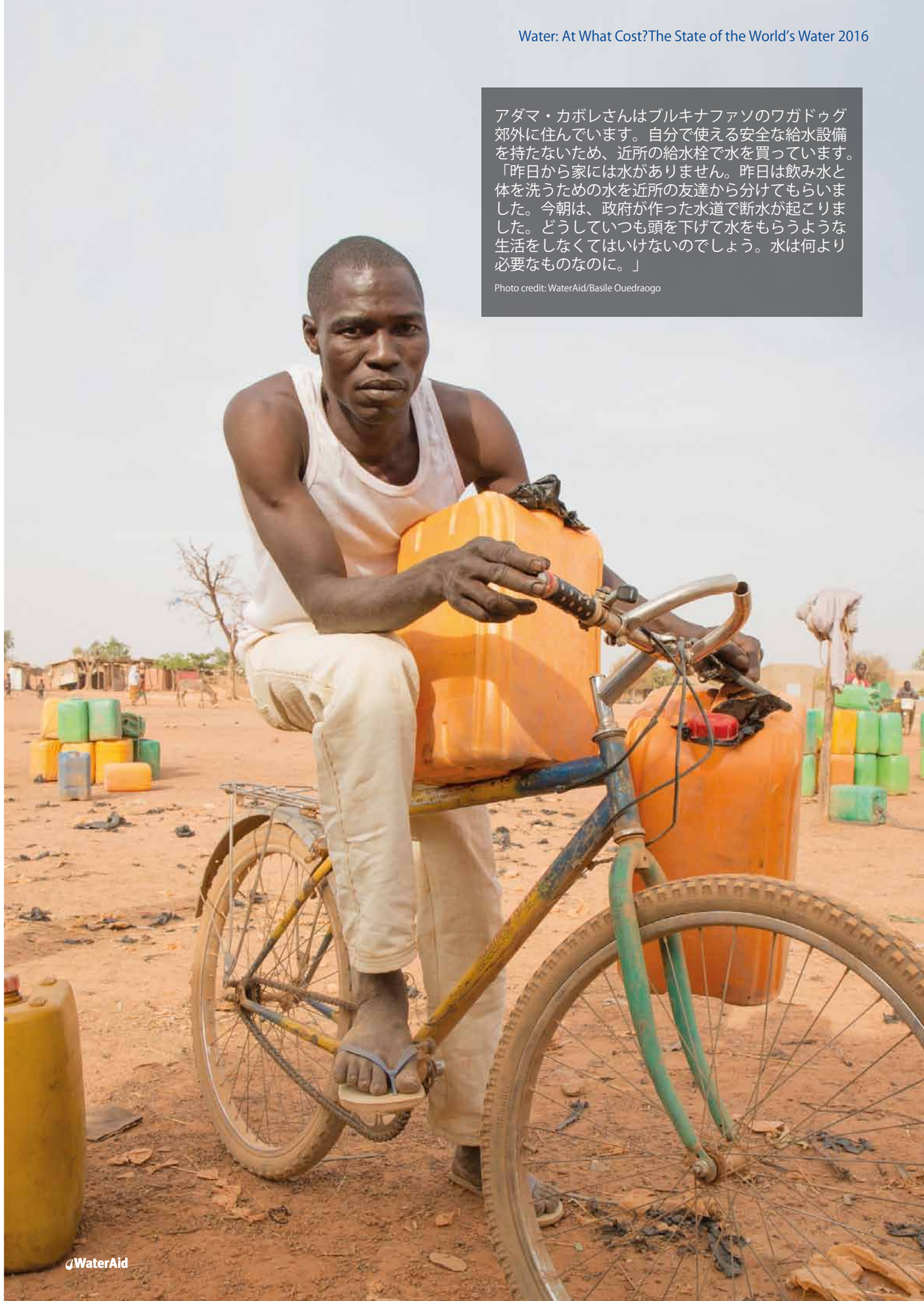
国名	水を利用できない人々の人口に対する割合
ペルー	13.3
イラク	13.4
モロッコ	14.6
ドミニカ共和国	15.3
アルジェリア	16.4
ブルキナファソ	17.7
コートジボワール	18.1
レソト	18.2
ソロモン諸島	19.2
ミャンマー	19.4
ギニアビサウ	20.7
ウガンダ	21.0
セネガル	21.5
ベナン	22.1
マリ	23.0
ジンバブエ	23.1
ギニア	23.2
コンゴ共和国	23.5
ルワンダ	23.9
ブルンジ	24.1
ラオス	24.3
カメルーン	24.4
リベリア	24.4
カンボジア	24.5
スワジランド	25.9
タジキスタン	26.2
東ティモール	28.1
ナイジェリア	31.5
中央アフリカ	31.5
キリバス	33.1
ザンビア	34.6
モンゴル	35.6
ケニア	36.8
トーゴ	36.9
シエラレオネ	37.4
南スーダン	41.3
パレスチナ	41.6
ニジェール	41.8
モーリタニア	42.1
エリトリア	42.2

国名	水を利用できない人々の人口に対する割合
ハイチ	42.3
エチオピア	42.7
タンザニア	44.4
アフガニスタン	44.7
コンゴ民主共和国	47.6
マダガスカル	48.5
モザンビーク	48.9
チャド	49.2
アンゴラ	51.0
赤道ギニア	52.1
パプアニューギニア	60.0
英領バミューダ諸島	No data
英領バージン諸島	No data
ブルネイ・ダルサラーム	No data
チャンネル諸島	No data
香港	No data
マカオ	No data
ドミニカ	No data
フェロー諸島	No data
フォークランド諸島(マルヴィナス諸島)	No data
仏領ギアナ	No data
マン島	No data
リビア	No data
リヒテンシュタイン	No data
仏領マイヨット島	No data
蘭領アンティル	No data
パラオ	No data
プエルトリコ	No data
韓国	No data
サンマリノ	No data
ソマリア	No data
スーダン	No data
トルクメニスタン	No data
英領タークス・カイコス諸島	No data
ウズベキスタン	No data
西サハラ地域	No data
イエメン	No data

参考文献

1 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org
2 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org
3 UNICEF (2015). These are child deaths after the neonatal period.www.unicef.org/publications/files/APR_2015_9_Sep_15.pdf
4 United Nations (2015), Report of the Special Rapporteur on the human right to safe drinking water and sanitation www.righttowater.info/wp-content/uploads/2015_SR_WatSan_Affordability_HRC_30.pdf
5 www.globalgoals.org
6 WASHwatch:www.washwatch.org
7 World Health Organization/UNICEF definitions: www.wssinfo.org/definitions-methods/watsan-ladder
8 World Health Organization (2003): www.who.int/water_sanitation_health/diseases/en/WSH03.02.pdf
9 WaterAid (2016).
10 Government of Papua New Guinea: official minimum wage is K2.35 an hour – approx. K100 a week.
11 WaterAid (2016).
12 Belavabary Mayoral Office, Madagascar (2015).
13 WaterAid (2015).
14 WaterAid (2015).
15 WaterAid (2016).
16 WaterAid (2016).
17 Based on Severn Trent Water measured charges (2016). Prices vary around the UK.
18 Seven hours at UK minimum wage of £6.70 = £46.90 gross.
19 World Health Organization/UNICEF (2015). These are child deaths after the neonatal period: www.unicef.org/publications/files/APR_2015_9_Sep_15.pdf
20 World Health Organization (2008) Safer water, better health: Costs, *benefits and sustainability of* interventions to protect and promote health: http://whqlibdoc.who.int/publications/2008/9789241596435_eng.pdf
21 World Health Organization/UNICEF (2012) Progress on Drinking Water and Sanitation 2012 Update www.wssinfo.org/fileadmin/user_upload/resources/JMP-report-2012-en.pdf
22 Overseas Development Institute (2015) Private sector and water supply, sanitation and hygiene www.odi.org/sites/odi.org.uk/files/odi-assets/publications-opinion-files/9930.pdf
23 Organisation for Economic Co-operation and Development - Creditor Reporting System database (2016). Over the last ten years, the share of water and sanitation official development assistance (ODA) has risen slightly from 3.4% of total ODA in 2005 to 4.4% in 2014.
24 WaterAid (2015) Universal access by 2030: will there be enough water?www.wateraid.org/what-we-do/our-approach/research-and-publications/view-publication?id=f0b57497-8bf8-47c7-90a4-e3a01f20c0fe
25 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org
26 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org
27 WASHwatch:www.washwatch.org
28 WASHwatch:www.washwatch.org
29 WaterAid (2016).
30 Government of Papua New Guinea: official minimum wage is K2.35 an hour – approx. K100 a week.
31 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org
32 UN Habitat (2013): www.fukuoka.unhabitat.org/programmes/ccci/pdf/Port_Moresby_Papua_New_Guinea_Climate_Change_Vurnerability_Assessment_2014.pdf
33 All information in this case study is from WaterAid (2016).
34 WASHwatch:www.washwatch.org
35 WASHwatch:www.washwatch.org
36 WaterAid (2016).
37 The World Bank (2014): http://data.worldbank.org/indicator/SI.SPR.PC40. £3 a day.
38 Central Ground Water Board, Ministry of Water Resources, River Development and Ganga Rejuvenation, Government of India (2014): www.cgwb.gov.in/documents/Dynamic-GW-Resources-2011.pdf
39 Central Ground Water Board, Ministry of Water Resources, River Development and Ganga Rejuvenation, Government of India (2013): www.cgwb.gov.in/Ground-Water/GROUND%20WATER%20LEVEL%20SCENARIO_PreMon_2013.pdf
40 WASHwatch:www.washwatch.org
41 WASHwatch:www.washwatch.org
42 WaterAid (2016).
43 WaterAid (2016). £0.71 for a street food-seller.
44 All information in this case study is from WaterAid (2016).
45 WASHwatch:www.washwatch.org
46 WASHwatch:www.washwatch.org
47 WaterAid (2016).
48 Belavabary Mayoral Office, Madagascar (2015). £1.10 for a factory worker.
49 WaterAid (2016).
50 WASHwatch:www.washwatch.org
51 WASHwatch:www.washwatch.org
52 WaterAid (2016).
53 Addis Fortune(2014): http://addisfortune.net/articles/government-announces-scale-of-civil-servant-salary-increment £0.65 for low-ranking government employee.
54 All information in this case study is from WaterAid (2016).
55 There is data for water access in 199 countries: www.wssinfo.org
56 WASHwatch:www.washwatch.org
57 WASHwatch:www.washwatch.org
58 WaterAid (2016).
59 WaterAid (2016).
60 All information in this case study is from WaterAid (2016).
61 UNICEF (2012): www.unicef.org/media/media_61922.html
62 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org
63 WASHwatch:www.washwatch.org
64 WASHwatch:www.washwatch.org
65 WaterAid (2016).
66 The World Bank (2014): www.worldbank.org/en/news/press-release/2014/02/20/poverty-has-fallen-yet-many-cambodians-are-still-at-risk-of-slipping-back-into-poverty £1.62.
67 Government of Cambodia, Ministry of Rural Development (2015).
68 WASHwatch:www.washwatch.org
69 WASHwatch:www.washwatch.org
70 WaterAid (2016).
71 L'Enquête Intégrale sur les Conditions de Vie des Ménages (EICVM – Burkina Faso) (2009). £0.88 per day.
72 WASHwatch:www.washwatch.org
73 WASHwatch:www.washwatch.org
74 WaterAid (2015).
75 WaterAid (2015).
76 All information in this case study is from WaterAid (2015).
77 www.globalgoals.org
78 WASHCost and WaterAid (2014).
79 Hutton (2012) *Global costs and benefits* of drinking-water supply and sanitation interventions to reach the MDG target and universal coverage, World Health Organization:www.who.int/water_sanitation_health/publications/2012/globalcosts.pdf
80 WaterAid (2015) Financing universal access to water, sanitation and hygiene by 2030: www.wateraid.org/what-we-do/our-approach/research-and-publications/view-publication?id=52b40e9b-d6af-4633-9f03-619962860e8b
81 WASH4Work is a proposed umbrella movement that would bring together businesses, governments and multilateral agencies with the goal of ensuring that all employees have access to WASH in their places of work: www.odi.org/sites/odi.org.uk/files/odi-assets/publications-opinion-files/9930.pdf
82 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): www.wssinfo.org

Water: At What Cost?The State of the World's Water 2016



アダマ・カボレさんはブルキナファソのワガドゥグ郊外に住んでいます。自分で使える安全な給水設備を持たないため、近所の給水栓で水を買っています。「昨日から家には水がありません。昨日は飲み水と体を洗うための水を近所の友達から分けてもらいました。今朝は、政府が作った水道で断水が起こりました。どうしていつも頭を下げて水をもらうような生活をしなくてはいけないのでしょう。水は何より必要なものなのに。」

Photo credit: WaterAid/Basile Ouedraogo

Written by Tom Burgess with support from
Carolynne Wheeler, Tim Brewer, Dan Jones, James Wicken,
Helder Samo Gudo, Behailu Shiferaw, Basile Ouedraogo,
Pragya Gupta, Nitya Jacob, Chileshe Chanda, WaterAid Madagascar,
WaterAid Papua New Guinea, Elisa Dehove, Miriam Denis Le Sève,
Fleur Anderson, Fiona Callister and Tamsin Maunder.

March 2016
www.wateraid.org
#StateofWater

Media contacts:

- Global/UK: Fiona Callister, fionacallister@wateraid.org; or Carolynne Wheeler, carolynnewheeler@wateraid.org; or pressoffice@wateraid.org
- USA: Alanna Imbach, alannaimbach@wateraid.org
- Canada: Graham Milner, gmilner@wateraidcanada.com
- Australia: Kirrily Johns, info@wateraid.org.au
- Sweden: Magdalena Olsson, magdalena.olsson@wateraid.se or Petter Gustafsson, petter.gustafsson@wateraid.se
- India: Pragya Gupta, pragyagupta@wateraid.org

WaterAid

WaterAid is a registered charity:
Australia: ABN 99 700 687 141.
Canada: 119288934 RR0001.
Sweden: Org.nr: 802426-1268, PG: 90 01 62-9, BG: 900-1629.
UK: 288701 (England and Wales) and SC039479 (Scotland).
US: WaterAid America is a 501(c) (3) non-profit organization.